

未来に向けた
「学びの場」の環境づくり

学 生 部 長
に 聞 く

学生部長・宮下雄治教授

国学院大学の大学運営を担う執行部と称される5部門(教務部、学生部、入学部、就職部、国際交流部)の中でも、学生部は、学生が学業や課外活動などに存分に取り組めるよう、安全・安心な環境づくりをはじめ、生活支援や経済的支援、さらには心のケアまで含めた総合的なサポートを推進している。

令和7年4月に就任し、2年目を迎えた宮下雄

治・学生部長(経済学部教授)は、「これらの支援活動を統括し、各学部や関係部署、さらには大学執行部と連携しながら学生支援を担う学生部長の職務は、極めて重大な責任を伴う」と語る。

本学で学ぶすべての学生がより一層安心して学び、思いきりやりたいことに打ち込めるようにと、推進する支援策などについて話を聞いた。

4・5面に続く

みはるかすもの

私と先生との出会いの話である。4年生になって少しだけ時間ができた私に級友が声を掛けてくれた。「お茶のお稽古に行ってみない?」翌週、院友会館に足を運ぶと、先生は「よくいらっしやいましたね」と茶室の畳に両手をつき、柔らかな笑顔で迎えてくれた▼お茶の世界はさまざまな道具があり見ているだけでも楽しい。床の間には時節に合った墨蹟が掛けられ、花が活けられる。釜の湯が沸き松風の音が聞こえてくると、すーっと涼風が吹き抜ける▼一転して稽古は厳しい。手順を間違えると手厳しく叱られる。一度で覚えられればと単純ではない。すると自然に手が出るようになるまで

ただひたすらに積み重ねるしかない▼先生はお茶だけでなく高い教養を持つ人でもあった。時の学長(中国文学)を茶室に招いたときの掛物は「悠然見南山(悠然として南山を見る)」。菊を飾り一服のお茶をふるまうと、陶淵明の話に花が咲いた▼3年前には難しい相伝の稽古を見ていただいた。テキストはなく、自分のメモと記憶が頼り。緊張して真冬なのに冷や汗が出た。点前のお茶を飲むと、先生は「よく覚えてきたわね」と微笑まれた。はじめて先生に褒められた稽古が先生との最後の稽古となった▼正月の駅伝中継後には、弾んだ声でよく電話をかけてくれた。「はらはらして心臓に悪いわね」と。厳しい中にも人間味あふれるその声をもう聞くことはできないが、先生への敬慕の念は尽きることがない。

大切な出会いはいつ訪れるかわからない。

令和7年度卒 就職率95・8%

観光まちづくり学部1期生は高水準

令和7年度(令和8年3月)卒の国学院大学卒業生の就職率は、95・8%で、前年度から1・4ポイント減少した。学生の就職をとりまく環境として大卒有効求人倍率は、1・66倍で前年より0・09ポイント低下し、「売り手市場」ではあるものの、企業側の採用意欲が落ち着いてきていることがうかがえる。1期生が卒業した観光まちづくり学部の就職率は、98・3%だった。

民間企業への就職では、建設業、情報通信業、金融業の就職者が前年度に比べて増加。公務員は、国家・地方合わせ188人となり2割増加している。国家公務員総合職には1人が就職。令和4年度から4年連続で採用実績を上げている。

教育関係では、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員と保育士を合わせ244人で、前年度より微増。神社関係では、神職資格取得者のうち、49人が神社界(奉仕先神社が実家の場合も含む)に進んだ。

正しい情報を得て行動を

就職環境は近年、「売り手市場」と言われるが、採用状況は年々変化している。政府の要請に基づき、6月1日、令和9年3月卒業予定者の採用活動が解禁された。一方で、人手不足などを背景に、企業のみならず、公務員、

員、教職の採用活動でも年々早期化が進む。キャリアサポート課の担当者は「近年、学生の進路は多様化している。学びや経験を糧に選択肢を広げて、チャレンジをしてほしい。低学年からキャリアを意識したさまざまな取り組みをする学生が増えてきているが、SNSなど真偽不明の情報に左右されず、企業、官公庁、大学などが発信する正しい情報を得てほしい」と話す。

本学は、企業、公務員、教職、神職など学生が目指す進路によって、専門の部署がサポートを行っている。

令和7年度卒業生進路業種別内訳

公務員	8.5%	神職	2.2%	非営利	3.7%	建設	4.0%
教育	10.4%	製造	8.0%	運輸・通信	5.9%	卸・小売	12.3%
マスコミ	3.0%	不動産	4.4%	金融	7.4%	サービス	30.1%

※小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は100%となりません

9氏に名誉教授の 称号を授与

国学院大学は、令和7年度をもって退職した9人の元教授へ名誉教授の称号を贈ることを決定し、授与式を6月17日に渋谷キャンパスで行った。

針本正行学長は9氏の教育、学術上の功績を紹介した後、本学への長年の貢献に謝意を述べた。

対象者は以下の通り。(敬称略)

◆文学部Ⅱ大久保桂子、藤野寛

◆経済学部Ⅱ中泉真樹

◆人間開発学部Ⅱ塩谷香、鈴木みゆき、吉川成夫

◆観光まちづくり学部Ⅱ楓千里、下村彰男、西村幸夫



藤野寛
名誉教授



塩谷香
名誉教授



吉川成夫
名誉教授



下村彰男
名誉教授



中泉真樹
名誉教授



鈴木みゆき
名誉教授



楓千里
名誉教授



西村幸夫
名誉教授

文学部講演会 日本とベルギーの 修好160周年を記念し開催



国学院大学博物館で開催中の特別展「日本・ベルギー修好160周年記念—美と知の交流の軌跡—」に関連して、文学部の講演会「日本・ベルギー 美と知の交流の軌跡」が5月30日、渋谷キャンパス学術メディアセンター常磐松ホールで開かれ、約230人が聴講した。

冒頭、谷口雅博・文学部長(教授)があいさつに立ち、「特別展を共催するルーヴェン・カトリック大学とは大学間協定を締結しており、文学部としても研究面で活発な交流を続けてきた。その成果が、ベルギーとの修好160周年を記念した展示や本講演会に結実したことをうれしく思う」と述べた。

講演会は手塚雄太・同学部教授の



司会で進められた。前半は「知」の交流をテーマに3人の研究者が報告した。

渡邊卓・研究開発推進機構構准教授は「国学院の歴史と所蔵コレクション」と題し、特別展を開催することができた本学の由縁と、本学の母体である皇典講究所の初代総裁・有栖川宮織仁親王ゆかりの品々や、同宮家の祭祀を継承した高松宮家ゆかりの貴重な資料を紹介した。

ベルギー・フランダース政府貿易投資局日本事務所代表のディルク・デルイベル氏は「日白修好通商航海条約(1866年)」と題して講演。幕末の混乱期にベルギーの外交官たちが根気強く交渉を重ね、武力によらず友好的な形で条約を締結した経緯

特別展「日本・ベルギー修好160周年 記念—美と知の交流の軌跡—」が開幕

国学院大学とルーヴェン・カトリック大学が共催し、駐日ベルギー大使館が後援する特別展「日本・ベルギー修好160周年記念—美と知の交流の軌跡—」が5月23日、国学院大学博物館で開催した。日本とベルギーの「修好通商航海条約」締結から160周年を記念して企画された。ベルギー王国の貴重な資料や本学コレクションを通じて、両国の交流史を概観する展示となっている。



明治天皇が寄贈し、初めて里帰りが実現した花瓶(ベルギー王立美術歴史博物館所蔵)

開催期間中、ミュージアムショップではベルギーの漫画家・エルジェによるバンド・デシネ(漫画)『タンタンの冒険』のキャラクターグッズも販売する。

若木育成会全国支部長事務連絡会・ 本部総会を開催



保証人(在学生の父母)で組織される若木育成会は5月16日、渋谷キャンパスで全国支部長事務連絡会、本部総会を開催した。

総会では、前年度事業報告および決算報告、今年度事業計画についての審議がなされた。また今年度の役員の選出も行われ、半田りえ子会長、吉田静枝副会長、落合幹彦副会長の再任、池邊晃子・前3年生幹事の副会長就任がそれぞれ承認された。

その後、会場をグランドプリンスホテル高輪「プリンスルーム」(東京都港区)に移し、支部長と、5月24日から全国各地区で始まる「支部の集い」に出席する本学教職員との懇談会が開催された。

教職員人事

【採用】

◆大学事務局◇嘱託▷辰己佳苗(総合企画部入学課)
(令和8年6月1日付)

緯に関連資料から解説した。

ルーヴェン・カトリック大学文学部日本学科准教授のアドリアン・カルボネ氏は「有栖川宮織仁親王の欧米巡遊—ベルギー訪問の舞台裏を垣間見て」と題して報告。織仁親王がわずか2週間前の通知でベルギーを訪問したにもかかわらず、同国が勲章授与や特別列車の運行など手厚くもてなした様子を各種資料から明らかにしたⅡ写真上。

休憩をはさんだ後半は「美」の交流をテーマに3人が登壇した。

藤澤紫・文学部教授は「浮世絵と東西文化交流—視覚化された情報のゆくえ」と題し、葛飾北斎ら西洋の技法を積極的に取り入れた浮世絵師と、日本の浮世絵に西洋文化との類似性を見いだした欧州の画家や収集家たちが相互に影響を与え合い、新たな芸術を生み出していった過程を解説した。ベルギー王立美術歴史博物館から出展された東洲斎写楽の大幅絵や鈴木春信の「官女」についても「ロイヤルコレクション」として大変貴重なもの。ぜひ鑑賞してほしい」と呼びかけたⅡ写真下。

同博物館のナタリー・ヴァンデペレ氏は「国王の夢叶う—ブリュッセルの『日本塔』をめぐる」と題して講演した。パリ万国博覧会で建築家アレクサンドル・マルセルが手がけた建築群に感銘を受けた当時のベルギー国王レオポルド2世が建造した「日本の塔」が、貿易館として両国の交流に寄与したこと、明治44年の「ベルギー・日本常設博覧会」では明治天皇から花瓶と漆塗りの文箱が寄贈されたことなどを詳述した。

進藤久乃・文学部准教授は「クリスチャン・ドートルモンと東洋の文字」と題し、ベルギーを代表する詩人ドートルモンの集大成「ロググラム」を解説した。画家との共同制作を多く手がけたドートルモンが手書き文字や東洋の文字への関心を深め、日本の書の考察が「ロググラム」の創造に影響を与えた可能性を示唆した。

閉会後、聴講者は6人の報告で得た新たな視点をもとに本学博物館へ向かい、展示を鑑賞した。特別展は6月28日まで開催する。

文学部講演会「『詩経』の 本義を求めて」を開催

国学院大学文学部講演会が5月23日、渋谷キャンパスで開催された。今回の講演会は「詩経」の本義を求めて」と題して、本学元特任教授の川合康三・京都大学名誉教授(日本学士院会員)を講師に迎えて開催され、学生や一般の方など約100人が参加したⅡ写真。

川合氏は、「詩経」について、もともと音楽や踊りとともに口頭で唱えられていた歌詞が、武帝の時代に儒学の基本経典である五經の一つとされ、「詩経」と呼ばれるようになったと説明。詩経には「魯詩」、「齊詩」、「韓詩」の「三家詩」と呼ばれる三つの系統があり、漢王朝の正式な学問として認められたが、後漢の時代には注釈を付した「毛詩」が主流になり、三家詩が廃れていったと述べた。

「詩経」は經典化されたことによって、以降の時代では詩の規範とされたものの、「詩経」そのものが実は非常に自由で多様であることが面白く、「儒教の規範に縛られていたはずの『詩経』の中に、豊かな文学の姿を見ることができると語った。

また、「詩経」の本義について、「儒学者の朱熹が『虚心平看』といったように、先入観を持たずに素直な気持ちで見れば、意味が分かってくる。普段学問をしていると、実証性や意味、意義を求めすぎる傾向にあるが、詩はもともと遊びであって、もっと楽しみながら読むことができるのではないかと述べた。

川合氏は、「詩経」には純粹で豊かな愛情表現により民間の強く生き生きとした女性像がうたわれた一方で、宋代に至り、書き手が社会・文化の支配者であった士大夫にほぼ限定されたことで、男性から女性への愛情は描かれるものの、女性から男性への愛情表現は乏しくなっていたと説明した。

講演後には質疑応答の時間が設けられた。詩の解釈について質問を受けた川合氏は、「古代の習俗を踏まえながら詩を読み解くといった方法もあるが、そうでなくとも詩を読むことはできる。自由に、自分なりに詩経を読んでみてほしい」と話した。



コメ作りワークショップで 日本文化に触れる



彬子女王殿下が総裁を務められる一般社団法人心
游舎が主催する「新潟コメ作りワークショップ」の田植
え体験が、5月31日に新潟市北区の田んぼで行われ、
在学生11人と教職員、院友、協力農家や地元住民な
ど約30人が参加した。このワークショップは、コメ作
りの体験を通して、日本の文化と歴史に触れることを
目的に毎年実施されている。

当日、学生たちは伝統的な農作業服である「やまぎ
もん」に着替えて田んぼへ移動。田んぼの泥に足を取
られ苦労しながらも、協力農家の方から指導を受け、
一苗ずつ丁寧に植えていった。

今後、7月に草取り、10月には稲刈りの実施が予定
されている。

全国院友高等学校長会総会を開催



全国院友高等学校長会の総会が5月27日に渋谷
キャンパスで開催され、高等学校長を務める院友ら約
30人が参加した。

総会では、櫻井丸会長(昭60卒・93期法・八千代
松陰中学・高等学校長)が「今後、国学院大学から
一人でも多くの教員志望者が輩出されることを期待す
る」とあいさつし、針本正行学長が「教職を目指す学
生の思いが現実のものとなるよう努めていく」と述べ
た。続いて、教員志望の学生を全面的に支援すること
や、同会の会則制定、令和8年度会長として櫻井会長
の再任などについても審議、承認された。また、大学
からは学生の教員就職状況や入学試験の概況などが
報告された。終了後の懇親会では、院友校長と教職員
らとの情報交換が積極的に行われた。

高校教員を招き入学試験説明会を開催



高等学校の進路指導担当教諭らを対象に、本学の
入学試験制度や教育の特徴を説明する高等学校教員
対象入学試験説明会が5月22日、渋谷キャンパスで対
面およびオンデマンドによるハイブリッド形式で開催
された。

冒頭、石川則夫副学長(入学担当、文学部教授)が
あいさつに立ち、「時代が移り変わろうとも大学教育
の本質は変わらず、学生たちに『自ら問いを立てる力』
を養ってもらうことにある。卒業後も生涯をかけて向き
合い続けるような『大きな問い』を学生たちが見つけ、
その問いを解決していく力を育成することこそが本学
の使命である」と述べた。続いて入学課職員から令
和8年度入学試験の実施状況を報告し、入学試験委員
長の穴戸節太郎・文学部教授が令和9年度入学試験
制度について説明した。

説明会後は懇親会が開催され、参加者と本学教員
らが意見交換を行った。



院友(本学卒業生)の組織である一
般財団法人国学院大学院院友会主催の
令和8年度院友大会および一般講演
会が5月23日、明治記念館(東京都港
区)で開催され、全国各地から集ま
った院友と学生、教職員ら約320人が
参加した。写真。
院友会の公益事業として実施され
た一般講演会では、日本
中世史を専門とする矢部
健太郎・文学部教授(平
7卒・103期史、平
16・112期博後文他)
が講師を務め、「秀吉兄
弟と豊臣政権」と題し、
大河ドラマで注目を集め
る豊臣秀吉、秀長をめぐ
る戦国時代の政治状況に
ついて講演した。

院友大会は一般講演会
に続いて行われ、まず、
吉田茂穂・同会長(昭
41修・74期神專攻他、鶴
岡八幡宮宮司)が「全国
の各方面でご活躍の院友
の皆さまにご参加いただ
いた。今年度から観光ま
ちづくり学部の1期生が
院友として新たに加わっ
た。ぜひ、その若い力に
注目し、期待してほし
い」とあいさつした。続
いて、佐柳正三理事長と

令和8年度院友大会・一般講演会 —協力団体に「院友観まち会」が加入

針本正行学長が祝辞を述べ、母校への
継続的な支援を呼びかけた。
院友会長賞の贈呈では、観光まちづ
くり学部の卒業生組織「国学院大学
院友観まち会」の発足に尽力し、初代学
部長として地域貢献に献身的に取り
組んできた西村幸夫・名誉教授と、渋
谷川沿いの賑わいづくりを8年にわ
たりゼミ単位で地元と連携して続け
てきた経済学部の田原裕子ゼミナ
ールに賞状と記念品が授与された。



学問ノ道

【経済学部60周年スペシャル】

私の研究は、財務会計分野を専門とし
ています。財務会計は、企業の会計情報
をどのように作成し、外部に向けてどの
ように公表すべきか、といったことを扱
う学問です。そうした情報の作成や公表
に関してさまざまなルールが定められて
いて、その根底にある考え方(基礎概念)
を中心に研究しています。たとえば、企
業のブランド力は価値あるものですが、

財務会計では企業の資産とはみなされ
ません。存在自体が曖昧で、客観的な金
額も算定できないためです。この例でい
えば、なぜブランドは資産とみなせない
のかに関する理由付けを考えたり、どう
いった場合なら資産とみなせるようにな
るのかといった条件を考えるのが基礎概
念の研究となります。

当たり前を問い直す

—基礎概念研究の面白さ

のように、さまざまな進歩・発展によっ
て現在の当たり前は通用しなくなる、と
いった意識を強く持つようにしていま
す。

世間一般には、会計といえば簿記(特
に簿記検定試験)が連想され、会計＝簿
記というイメージで捉えられがちです。
簿記は、ルールに沿って計算し1つの答
えを導き出す作業ですので、算数ドリル
的な面白さがあります。ただし、10年以
上前から、簿記の知識を単純活用したた
けの仕事はAIに代替されるであろうと

いう指摘がなされており、目下の生成A
Iの発展でそのことは現実のものとなり
つつあります。このことから、今後の社
会において求められる会計力は、ルール
に沿って正しく処理する簿記の力ではな
く、ルールを理解したうえで企業の数字
の背後にあるもの・数字の先にあるもの
を洞察する力であるといえます。そうし
た深い洞察力を得るためにも、私自身が
「当たり前を疑う」姿勢を持続続けるの
はもちろん、授業でも、学生にその姿勢
を伝えていきたいと思っています。

経済学部准教授

中田 有 祐

なかた・ゆうすけ
修士(商学)。専門は財務
会計、国際会計。早稲田
大学大学院商学研究科博
士後期課程単位取得退学
後、2013年より本学。主
な研究に「ビジネスモデル
に基づく測定分類と会計
情報の有用性」(『國學院
経済学』64巻4号)など。



未来に向けた「学びの場」の環境づくり

学 生 部 長 に 聞 く

学生部長・宮下雄治教授

豊かな大学生活を支える、安全・安心な環境づくりに終わりはない。



みやした・ゆうじ

経済学部教授。博士(経済学)。専門はマーケティング。主な著書に『こうして顧客は去っていく―サイレントカスタマーをつなぎとめるリテンションマーケティング―』(日本実業出版社、2024年)、『新時代のマーケティング―デジタル経済を動かすキーワード―』(八千代出版、2023年)、『米中先進事例に学ぶ マーケティングDX』(すばる舎、2022年)などがある。

学生の安全・安心を支え、快適なキャンパス環境を整備

渋谷・たまプラーザの両キャンパスにおいて、学生が安心して学び続け、快適に過ごせる環境を整備するという重要な役割を担っているのが学生部だ。学生部では、安全・安心な環境づくりに加え、生活支援や経済的支援、さらには心のケアまで含めた総合的なサポートを推進している。

学生部長就任2年目となる本年は、本学で学ぶすべての学生がより一層安心して学び、思いきり活

動に打ち込める環境を整えていきたい。そして「国学院大学に入ってきた」「この大学なら大丈夫だ」と学生や保証人に実感してもらえ、環境のなかで、学生の挑戦と成長をあらゆる側面から支えていきたい。こうした豊かな大学生活を支える、安全・安心で快適な大学づくりに終わりはない。現状を常に点検しながら、進化と改善を積み重ねていくことが重要である。

昨今、学生の安全・安心を支える根幹そのものが、あらためて問われる出来事が全国的に相次いでいる。課外活動に伴うバス送迎時の事故や熊の出没による被害など学生の安全を脅かす事案に加え、学生が闇バイトに巻き込まれ、犯罪に加担してしまうケースも全国的に散見されている。これらの事象は、学生が直面しうるリスクが従来の想定を超えて拡大し、大学が担う安全管理の重要性が一層高まっていることを示している。従来は学校内での危機管理が中心であったが、学内・学外、さらには

ネット空間を含めたあらゆる場面で、トラブルについて、大学が考慮すべきリスクは広範かつ複雑になっている。

こうした課題には、万全な特効薬は存在しない。だからこそ、日々の声掛けや事前確認、関係者間での情報共有といった基礎的な取り組みを丁寧に積み重ねていくことが重要となる。日頃から行っている安全点検や危機管理体制を見直すとともに学生はもとより、指導者をはじめとする関係者に対して的確な情報共有を継続的に行っていきたい。

学生の挑戦と成長を支え、満足度と帰属意識の向上を目指す

この1年間の学生部長としての経験を通して、本学の学生たちが学業はもちろん、課外活動や地域活動など、さまざまな分野で日々努力を重ね、活躍していることを実感した。こうした多様な分野で努力する学生の挑戦と成長を支援していきたい。

人間の成長には、「知・徳・体」をバランスよく育てることが大切だといわれている。そのためには、学生が課外活動にも積極的に取り組める環境づくりが必要である。本学の課外活動には公認・準公認合わせて約200の団体が存在し、延べ人数は約8000人になる。それらの活動は、自ら考えて行動する力や、他者と協働する力を実践的に養う場となるとともに、成功や失敗の経験を通して、「非認知能力」の向上や自己理解を深める場にもなる。こうした活動は、大学生活を彩り、成長を感じられる重要な経験となる。

学生部は各団体の自主性を尊重しつつ、それぞれの活動に安心して取り組めるためのサポートを行って、課外活動に伴うリスクを未然に防ぐための情報提供や指導をするともに、学生保健室

経済情勢の変化に対応する支援、心のケアも重要視

昨今の不安定な経済情勢が、学生たちの学びの場にも深刻な影を落としている点は見過ごせない。経済的な理由で本学学生が学びを断念することを防ぐため、学内外の奨学金制度の支援に継続して力を入れていきたい。

「心のケア」も重視している。学業や友人関係、就職への漠然とした不安など、学生の悩みは非常に多様だ。そうした悩みは、自身の価値観や生き方を形づくる大切なプロセスでもあるが、一人で抱え込んでしまわないよう、「学生相談

室」が日々相談対応を行っている。本学の学生相談室は、臨床心理士・公認心理師など経験豊富なカウンセラーが在籍している。

また、学生部では、学科・学年を超えて、在学生の交流を深められる機会づくりにも努めている。学生が本学への帰属意識や大学生活の楽しさ、満足度をさらに高めていくためには、こうした機会を充実させていくことが大切である。若木体育祭や若木祭をはじめ、留学生と日本人学生の交流「国際交流パスハイク」や、七夕の時期に行う「和装DAY」、秋の「お月見祭」といった季節行事に加え、体育部長の応援イベントなど、大学全体で一体感を醸成する機会の創出に取り組んでいる。このような、学生同士が自然につながる機会を通じて、より活気あるキャンパスを目指したい。

私は、昨年の若木体育祭に初めて自分のゼミ生(2学年50人)とともに参加したが、教室では見る表情に触れることができ、その経験がその後のゼミの活性化につながった。こうした機会をできるだけ多くの学生に届け、教室だけでは得られない経験や仲間とのつながりを深めてほしいと願っている。

学生部の主な取り組み

【学生部長賞・学長特別賞の表彰】

学生部長賞は、各種大会やコンクールなどで優秀な成績を収めた団体・個人や、社会奉仕、文化活動において優れた実績を上げた団体・個人を表彰するもの。学長特別賞は、学生部長賞候補者の中から特に優れた成果を上げた団体・個人に贈られる。



【トラブル防止ガイダンス】

大学生活の中で想定されるトラブルやインターネット犯罪、悪徳商法などの被害を未然に防ぐ目的で実施している。



【コミュニケーション・スキル講座】

学生相談室が主催する講座で、ヨガインストラクターを招いて行われる「ヨガ体験ワークショップ」や、相手を尊重しつつ自分の意見や気持ちを伝える方法を学ぶ「アサーション・トレーニング」を実施している。



【奨学金相談窓口】

国学院大学では経済面の支援だけでなく、学生が夢の実現に向けて学業に専念できるよう、目的に応じた各種奨学金制度を用意している。相談窓口では学内外の奨学金に関する支援・相談を行っている。



トラブル防止の周知徹底、「伝える」と「伝わる」は大きな違い

室」が日々相談対応を行っている。本学の学生相談室は、臨床心理士・公認心理師など経験豊富なカウンセラーが在籍している。昨年度にはカウンセラーを増員し、たまプラーザキャンパスでは学生相談室の開室日を週3日から週5日に変更した。また、心理・性格に関する相談が多いことを踏まえて、「コミュニケーション・スキル講座」と題し、「ヨガ体験ワークショップ」や「アサーション・トレーニング」の講座を継続して開催している。学生相談室は相談内容の程度を問わず、スタッフが一人一人に寄り添いながら親身に対応しているので、どんなささいなことでも構わないので気軽に来室してほしい。

学部や関係部署、さらには大学執行部と連携しながら学生支援を担うことが学生部の役割であり、その責任は重大である。現在実施している支援が十分であるかどうか。支援を本当に必要としている学生に、確実に届いているかどうか。学生の安全・安心を脅かす事態が生じていないか―。それらを多角的な視点から点検し、課題を明らかにしながら、その実効性を一層高めていきたい。

情報収集やコミュニケーションのあり方が大きく変化する現代において、大学生を取り巻く環境も年々大きく変化している。犯罪やトラブルの実態が把握しにくくなる一方、思いがけない危険がより身近に潜む場面も増えている。こうした状況を踏まえ、啓発活動や注意喚起を一層強化していく必要がある。

毎年、トラブル防止ガイダンスを実施しているが、本年度は学生生活課の工夫により、従来の内容を見直し、動画視聴を軸とした形へ大幅にリニューアルした。学生が自分自身の問題として受け止めた結果、周知度・理解度・危機意識に関する各項目で90%を超える高

い評価を得た。「伝える」と「伝わる」は大きな違いだということ。今回のガイダンスで実感した。文情報だけでは十分に伝わらない内容もある。こちらが伝えたことで納得し、終えるのではなく、どうしたら学生がメッセージを自分事として受け取ってくれるか。発信するメッセージの質と発信手段の双方を時代に即して見直しながら、より効果的な周知と徹底を図ってきたい。

学生一人一人がトラブルに巻き込まれることなく、安心して通学し、学業に専念できる環境を整えることはもちろん、課外活動や自らの関心に基づく挑戦にも全力で取り組める環境を、今後も継続的に提供していきたい。

【若木体育祭】

例年6月にたまプラーザキャンパスで開催。



【和装DAY】

日本文化の体験や発信する機会として七夕にあわせて行われており、例年、浴衣で過ごす学生たちでキャンパスが彩られる。学生たちも企画・運営に携わっている。



【お月見祭】

学生イベント企画リーダーの学生たちが中心となって企画・運営し、令和6年度から実施。餅つき体験や、天文同好会カノープスの協力のもと天体観測などの催しを行っている。



【若木祭】

国学院大学の学園祭。体育系部会による演舞や文化・学術系団体による展示や発表会などが行われるほか、部会やサークルの学生による模擬店も設けられる。

【国際交流パスハイク】
【成績優秀者奨学金制度】

6面に関連記事

令和8年度 成績優秀者 奨学生65人を表彰

国学院大学は、令和8年度成績優秀者奨学制度の対象者として、65人を選出。表彰式を6月17日に渋谷キャンパス有栖川宮記念ホールで開催した。

同制度は、前年度に特に優れた学業成績を取った学生を表彰し、学修意欲のさらなる向上と能力の伸長を目的として実施されている。

表彰式では、針本正行学長があいさつに立ち、学生たちを激励し、続いて、各学部長から奨学生一人一人に賞状が授与された。写真。

式の最後には学生代表の2人があいさつし、中田圭音さん(史4)は「学びを継続することができているのは周囲の支えがあってこそ。学修に励み、人類の知の蓄積にほんのわずかも貢献できる人材になりたい」と話し、青木美咲希さん(初教4)は「今の環境が決して当たり前ではないと実感している



からこそ、前を向いて努力し続けられた。今後も周囲への感謝を忘れず、成長していきたい」と残りわずかとなった学生生活への意気込みを力強く語った。

表彰式終了後には、今回初めて懇談会が開催され、奨学生らが交

経済学部ゼミ相談会 上級生がゼミ選びをサポート



経済学部ゼミ個別ブース相談会が5月11日と20日に渋谷キャンパスで開催された。この相談会は、2年次の後期から開講されるゼミ「演習I」の応募に向けて、経済学会学生委員会が毎年主催している。

当日は、各ゼミに所属する3・4年生がブースを担当し、研究テーマや活動内容について資料を用いて紹介。参加した2年生は「研究内容だけでなく、普段のゼミの様子も知ることができてよかった」と話した。ブースを担当した3年生は「後輩たちに興味を持ってもらえるよう、魅力を伝えることができた」と語った。

国際交流バスハイク 学生たちが交流



国学院大学学生部が主催する国際交流バスハイクが、5月31日に実施された。この企画は、留学生を含む学生同士の交流を目的として毎年開催されており、今年度は教職員の引率のもと、約40人が参加した。

今回は、箱根周辺エリア(神奈川県)をめぐる日帰りバス旅行を行った。参加者は箱根神社(神奈川県足柄下郡)で正式参拝を行った後、箱根関所で昼食をとり、遊覧船で自然豊かな景色を楽しんだ。その後、本間寄木美術館に移動し、寄木細工を体験。寄木のコースター作りに挑戦しながら、参加者同士で交流を深めた。

フレンドシップファミリー交流会 万葉エコBeeプロジェクトとともに開催



国学院大学で学ぶ交換留学生とフレンドシップファミリーの交流会が5月23日、たまプラーザキャンパスで開催された。写真。今回の交流会では、留学生らが「万葉エコBeeプロジェクト」の活動を体験。同プロジェクトの学生による活動紹介や、ちみつ採取の実演が行われたほか、参加者たちがちみつの瓶詰め挑戦した。体験後は、ちみつを味わいながら参加者同士が交流を深めた。参加者は「多くの人と話し、親睦を深めることができた」と語った。

たまプラーザ宇宙の学校2026 子どもたちに自然科学の学びを提供



人間開発学部が主催する「たまプラーザ宇宙の学校」の令和8年度第1回が5月23日に開催された。「宇宙の学校」は、同学部の学部活性化事業「人間開発・花咲くプログラム」の一つとして、小学校低学年の児童とその保護者を対象に毎年行われており、今年で16回目の開催となる。子どもたちの論理的・科学的思考能力を育成する理数教育、中でも自然科学分野の教育の充実を図る機会として宇宙航空研究開発機構(JAXA)や、NPO法人「子ども・宇宙・未来の会」(KUUMA)の協力のもと、学生が全3回の準備や運営を担い開催している。

開校式では、近藤良彦校長(同学部教授)が「宇宙」をテーマに講演を行った。その後、学生たちのサポートを受けながら参加者がグループごとに巨大熱気球を作り、空中に飛ばす実験を行った。写真。

学内合同企業セミナーを実施



学部1年生から3年生および大学院博士前期課程1年生を対象とした学内合同企業セミナーが5月13日、渋谷キャンパスで開催された。

同セミナーは、大手や優良企業の採用担当者から各業界や企業の説明を直接聞くことができる催しで、参加した学生たちは、熱心にメモを取りながら耳を傾け、採用担当者の問いかけに挙手で応じるなど、積極的に参加する姿が見られた。

準硬式野球部 7季ぶりの1部復帰

令和8年度東都大学準硬式野球春季2部リーグが3月31日から6月5日にかけて独協大学天野貞祐記念球場(埼玉県越谷市)などで行われ、国学院大学準硬式野球部が見事優勝を果たした。

これに伴い、同部は6月1日から4日にかけて1部・2部入れ替え戦に挑み、東洋大学と対戦した。6月1日の初戦では5-1で勝利したものの、2日の第2戦では1-3で敗れ、第3戦にもつれ込む展開に。4日の第3戦では、3回表に1点先制するも4回裏に追いつかれ1-1で迎えた6回表に一挙4点を奪う攻撃を見せた。その後は無失点に抑えた結果、5-1で勝利。この結果、7季ぶりの1部昇格を決めた。

ベスト・ティーチング賞 10人を表彰



針本学長、石川機構長と受賞教員ら(後列左から内村助教、内藤講師、渡邊講師、三田准教授、前列左端 平地教授、右端 針谷教授)

国学院大学教育開発センターは5月21日に令和7年度「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」の表彰式を渋谷キャンパス有栖川宮記念ホールで行った。

この賞は、学生が授業の理解度や満足度について答える「学生による授業評価アンケート」の結果を踏まえ、教育内容および授業運営において優れた評価を受けた教員を表彰するもの。令和7年度は10人の教員が選出され、表彰式には6人が出席した。写真。はじめに、石川則夫・教育開発推進機構長(副学長)写真前列左から3人目)

があいさつし、針本正行学長は写真前列左から2人目が賞状と副賞を手渡し、受賞した教員をたたえた。

令和7年度の受賞者は以下の通り(所属は受賞時点)。

◆文学部▽針谷壮一教授◆経済学部▽辻和洋准教授◆法学部▽平地秀哉教授◆神道文化学部▽小林宣彦教授◆人間開発学部▽三田大樹准教授◆観光まちづくり学部▽石垣悟教授◆教育開発推進機構▽内村慶士助教◆兼任講師▽渡邊奈々講師▽野寺和彦講師▽内藤裕子講師



インフォダイジェスト



…在学生



…保証人



…卒業生



…一般



…受験生

内容 日にち 時間 場所 対象 定員 料金 申し込み 問い合わせ

イベント



公開古典講座



昭和初期に開講した「萬葉講座」の流れを受け継ぐ伝統ある講座です。「万葉集」と「源氏物語」の2講座で、それぞれ1日2講、5日間で10講を実施します。学内外の研究者が講師となり、作品の魅力に迫ります。

7月25日(土)～29日(水) 渋谷キャンパス常磐松ホール
各講座1日3000円。全日程申し込みの場合は割引制度があります。詳細はお問い合わせください。

7月15日(水)まで(必着)。申込方法は、①WEB ②FAX (03・5466・0394) ③郵送の3方法。詳細は大学HP(二次元コード)からご確認ください。



エクステンションセンター(☎03・5466・0270)

キャリアサポート



※詳細確認・申し込みはK-SMAPYⅡから行ってください

WEB合同企業説明会(27年卒対象)



本学学生を採用する意向が高い企業を招き、採用担当者から直接話を聞くことができる合同企業説明会です。一日で多くの企業と出会うことができます。この機会に業界・企業・職種研究を進めるとともに、自分に合った企業を探しましょう。

7月1日(水)

4年生・博前2年次

進路電話調査



4年生を対象に、進路状況に関する電話調査を実施します。希望進路(一般企業・公務員・教職・神社関係・進学)に関わらず、「進路・内定状況」をご報告ください。調査結果を今後の支援内容・企画の充実につなげていきますので、ご協力をお願いします。

6月29日(月)～7月10日(金)

4年生

高校生向けコンテスト作品募集

第30回全国高校生創作コンテスト

【部門】

- ▶ 短編小説の部(1人3篇以内=1篇4000字以内)
- ▶ 現代詩の部(1人3篇以内=1篇45行以内)
- ▶ 短歌の部(1人3首以内)
- ▶ 俳句の部(1人3句以内)

【表彰】最優秀賞(各部門1人、賞状・副賞5万円・記念品)、優秀賞(各部門2人、賞状・副賞3万円・記念品)、佳作(各部門5人、賞状・記念品)、文部科学大臣賞(1校、賞状・副賞5万円相当の図書カード・記念品)

第22回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト

【部門】

- ▶ 地域文化研究部門(祭り・伝統行事・郷土料理・方言などの調査研究=個人・団体)
- ▶ 地域民話研究部門(昔話・伝説など民話の調査研究=個人・団体)
- ▶ 学校活動部門(学校やクラス単位での生徒による地域と連携した地域課題研究の活動報告に加え、地域の一員として学校や生徒の「学びのあり方」について、担当教員が短くまとめたレポートを添えたもの)

【表彰】▶ 地域文化研究部門・地域民話研究部門：最優秀賞(個人・団体各1作品、賞状・副賞5万円・記念品)、優秀賞(個人・団体各2作品、賞状・副賞3万円・記念品)、佳作(個人・団体各2作品、賞状・記念品)

▶ 学校活動部門：優秀賞2校(賞状・副賞3万円相当の図書カード・記念品)

▶ 折口信夫賞：1作品(賞状・研究費5万円・記念品)

応募について

【応募期間】7月1日(水)～9月4日(金)必着

【応募条件・概要】▶ 高校生であること ▶ 自作未発表のもの

【応募方法】各コンテストのHP(二次元コード)にアクセスしてください。

▶ WEB応募

HPにある受付フォームから必要事項を入力して登録してください。

作品の提出は、登録後に提出方法をメールでお伝えします。

▶ 郵送応募

HPから専用の応募用紙を印刷し、必要事項等を記入して応募してください。

【発表】11月中旬に入賞者に通知、主催者HPでも公表します。



第30回全国
高校生創作
コンテスト



第22回「地域の
伝承文化に学ぶ」
コンテスト

国高校生新聞社コンテスト事務局(☎042・724・2750 FAX 042・724・2860)

※お知らせいただいた個人情報は、主催者において本コンテストの審査、結果発表、本人および学校への連絡や資料の発送に利用いたします。なお、個人情報を第三者に提供することはありません。応募作品の返却は不可、入賞作品の著作権は当主催者に帰属します。



卓球部

令和8年度 関東学生新人選手権 女子ダブルスで準優勝

令和8年度関東学生新人選手権大会が5月4日から6日にかけて、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館(東京都世田谷区)で開催された。

4日に行われた女子ダブルスでは、佐藤野々華選手(初教2)・宮内理伸選手(中文2)ペアが準優勝を果たした。準々決勝で順天堂大学のペアに3-0で勝利し勢いに乗ると、準決勝では中央大学の1年生ペアに第1セットを取られる苦しい展開となったものの、徐々に自分たちのペースに持ち込み、3-1で勝利して決勝に駒を進めた。決勝では東洋大学の1年生ペアと対戦し、惜しくも1-3で敗れた。

男子ダブルスでは、杉谷虎太郎選手(神文1)・増田凌志選手(健体1)ペアが準々決勝で専修大学のペアに3-1で勝利し、準決勝に進出。準決勝では法政大学のペアと対戦し、2-1とセットをリード。第4セットでもマッチポイント握ったが勝ち切ることができず、迎えた第5セットは相手ペアのペースで試合が進み、惜しくも2-3で敗れた。

この結果、女子ダブルスの佐藤選手・宮内選手ペアは、10月29日から開催される第92回全日本大学総合卓球選手権大会・個人の部への推薦権を獲得した。



女子ダブルスで準優勝を果たした佐藤選手と宮内選手

硬式野球部

東都大学野球 1部春季リーグ 7季ぶりの優勝

国学院大学硬式野球部が所属する東都大学野球1部春季リーグで7季ぶりの優勝を果たした。

第1週の中央大学との対戦を2勝1敗で勝ち越した同部は第2週で立正大学と対戦。4月14日の初戦は、先発の藤本土生投手（経3）が完封し、3-0で先勝。15日の第2戦は3-6で敗れたものの、16日の第3戦は佐藤大空選手（経4）のソロ本塁打などで3点を奪い、3-1で勝利した。

第3週は東洋大学と対戦。21日の第1戦は、2-1で競り勝ち、22日の第2戦は4-9で敗戦。24日の第3戦は、1-1の同点で迎えた九回、1死満塁の窮地に登板した富田遼弥投手（経営4）が後続を断った。その裏、先頭打者の石野蓮授選手（経営3）がセンターへの本塁打を放ち、サヨナラ勝利で勝ち点を獲得した。

第4週は亜細亜大学と対戦。5月5日の第1戦は一進一退の攻防の末、4-5で敗れたが、6日の第2戦では2

点を追う六回裏に緒方漣選手（健体3）、田井志門選手（健体4）の連続ソロ本塁打で同点とし、七回裏の大谷汰一選手（経営2）のソロ本塁打で勝ち越して3-2で勝利した。7日の第3戦では三回表、赤堀颯主将（経営4）がヒットで出塁すると、緒方選手と田井選手の連打で1点を追加。続く平井悠馬選手（健体4）のヒットで満塁とすると、花田悠月選手（神文2）がリーグ記録を塗り替える今季チーム18本目となる本塁打を放ち、この一回一挙5点を挙げた。八回にも1点を加え、6-3で勝利した。

リーグ1位で最終週に臨んだ同部は、2位の青山学院大学との首位攻防戦を迎えた。19日の第1戦は二回裏に石野選手がレフトへのソロ本塁打で1点を先制するも、七回表に追いつかれる展開に。1-1で延長戦に突入した十回裏、2死一・二塁の場面で、大谷選手がライトへの3ラン本塁打で3点を決め、4-1で勝利をおさめた。20日の第2戦では、0-0で迎えた五回表、ヒットと四球で一死満塁の好機をつくると、田井選手の適時打で2点を先制。さらに、平井選手の四球で、再び一死満塁とすると、石野選手がレフトへの満塁本塁打を放ち、この一回一挙6点を奪った。六回裏に1点を取られるもその後は、無失点に抑え、6-1で勝利。この結果、勝ち点5で春季リーグ優勝を決めた。

個人成績では、緒方選手が最高殊勲選手と首位打者、中井達次郎投手（経2）が最優秀防御率に選ばれ、赤堀主将、緒方選手、石野選手、大谷選手がベストナインに選出された。

同部は、6月8日から開幕する第75回全日本大学野球選手権記念大会に東都大学野球連盟代表として出場した。



笑顔でガッツポーズする選手らと関係者

柔道部

東京学生柔道優勝大会 3位

東京学生柔道優勝大会（男子第75回・女子第37回）が5月24日、日本武道館（東京都千代田区）で開催され、国学院大学柔道部は男子の部で3位の成績をおさめた。本大会は各大学7人の代表選手による点取り式トーナメント戦で行われ、全35校が出場した。

同部は2回戦から登場。東京大学と対戦し7-0で順調に初戦を突破すると、3回戦は専修大学と対戦。先鋒の甲斐大詩選手（健体3）が巴投げで

優勢勝ち、3番手の五将・荒川琉正選手（健体2）は後ろ袈裟固めで一本勝ちを決めて2-0で勝利した。

続く4回戦は昨年同様日本大学と対戦。なかなか勝負が決まらない中、5番手の三将・甲斐選手が横四方固めで一本勝ちをおさめ、1-0で接戦を制した。準決勝では明治大学と対戦。各選手が健闘したものの0-3で敗退した。なお、本大会で活躍を見せた甲斐選手が優秀選手に選ばれた。



東京学生柔道優勝大会で3位となった柔道部の学生ら（同部提供）

陸上競技部

野中恒亨主将 関東インカレ5000M 4位

第105回関東学生陸上競技対校選手権大会が5月21日から24日にかけて、カンセキスタジアムとちぎ（宇都宮市）で行われ、男子2部に所属する国学院大学陸上競技部からは5選手が入賞した。

21日に行われた10000m決勝に辻原輝選手（史4）、飯國新太選手（法3）、高石樹選手（健体2）が出場した。序盤から留学生選手を追う展開となったが、

必死に食らいつき、高石選手が日本人選手3番手でゴールし、8位入賞となった。

22日の1500m決勝に畑中蓮選手（健体1）が出場。序盤から積極的なレースを見せ、3分59秒03で5位入賞と健闘した。

24日の5000m決勝に野中恒亨主将（健体4）、鼻野木悠翔選手（法3）、五十嵐新太選手（健体1）が出場し、野中主将

は各校の注目選手が集うなか先頭集団で競り合い、日本人トップの4位に入賞した。

なお、同大会開催期間に先立つ4月5日に行われたハーフマラソンでは、最後まで粘りの走りを見せた吉田蔵之介選手（経4）が1時間3分17秒で2位。6位の野田顕臣選手（健体2）とともに力走を見せた。



5000m決勝で日本人1位となった野中主将
写真／月刊陸上競技